平成２６年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立池田高等学校　　学校番号　２０

Ⅰ　自己評価

1　学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、現代社会に貢献できる人間の育成に努める。

2　評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導
3　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学校の教育目標である「向学・友愛・練磨」に共感できる保護者は、90%を超え、この目標に向け、学校が努めていることが理解されていると考えられる。また、単に学力だけではなく、健全な身体、豊かな心を含めた人間を育成しようとしていることに対しても肯定的である。
4　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的生活習慣・授業規律の確立 ◇基礎・基本の定着と学力の向上 ◇個に応じたきめ細かな指導 ◇自ら考える力の育成
5　重点目標を達成するための校内における組織体制	企画委員会・教育課程委員会・各教科会・職員会議を通して全職員の意識の向上を図る。

6　目標の達成に必要な具体的な取組	7　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）　授業評価による授業改善（満足度調査、相互授業参観） （２）　習熟の度合いに応じた分かり易い授業、力のつく授業の実践 （３）　少人数教育及びきめ細かな個別指導 （４）　広報活動の取組	（１）　各種調査、研究授業等で授業改善が行えたか。 （２）　各教科の定める基礎・基本の定着が図られているか。 （３）　成績の上位者、下位者に対してともにきめ細かな指導を行えたか。 （４）　各種行事を通して、本校の教育活動の広報ができたか。

8　取組状況・実践内容等	9　評価視点	10　評　価
• 授業改善においては、年2回の公開授業週間を定め、各教諭が最低１回は、他の教諭の授業を参観に行くこととした。また、生徒に授業アンケートを行い授業改善に利用した。 • 生徒の実態に応じた習熟度編成（習熟クラス）や授業（数学）を行い、習熟の度合いに応じた分かり易い授業、力のつく授業を目指した。 • 成績不振者に対し補充授業を各考査終了後に行った。未提出物がある生徒に対する特別居残り学習を行った。習熟度の高い生徒には放課後補習、土曜補習などを行った。家庭学習を習慣づけるために英語・数学・国語において適宜、週末課題などを課した。 • 夏季休業中の中学生への学校説明会では、例年同様に各部活動・生徒会などの協力により中学生に好印象を与えることができた。本年度は特に、ＨＰの刷新を行い、校長、教頭による中学校訪問も２０校を超える中学校で行った。	① 他教科の実践が自分の授業実践の向上に寄与したか。生徒による授業評価を改善に生かしたか。 ② 習熟の度合いに応じた分かり易い授業、力のつく授業の実践ができたか。 ③ 少人数教育及びきめ細かな個別指導ができたか。 ④ 各種行事を通して、本校の教育活動の広報ができたか。	A　[B]　C　D A　[B]　C　D A　[B]　C　D A　[B]　C　D

11 成 果 ・ 課 題	○習熟クラスを各学年に設けているが、さらに力のつく実践を行うために、本年度より２年理科系習熟で成績の基準を設けた。これにより、より一層目標達成ができるクラスとなった。 ▲少人数指導の学習効果をより高められるような授業であるかが問われている。さらに、授業内容・形態については研究を進める必要がある。	総　合　評　価 A　[B]　C　D

12　来年度に向けての改善方策案

授業公開や授業アンケート等により授業改善を行い、授業力の向上に努めることが必要である。新教育課程の理念に則り、本校の実態にあった授業方法を考えていく必要がある。また、予習、復習、宿題のサイクルの定着を、各学年の早い時期に図りたい。これには、自宅学習の意欲を刺激する宿題の内容と量の工夫および点検を工夫することが大切である。

アクティブラーニングによる授業などを研究することで、協同的・互恵的な学び合いを醸成し、高めあう授業の創造を図る。また、総合的な学習の時間「探究」等を活用し、「福祉」・「国際」・「環境」について生徒に学びの場を増やす。こういったＥＳＤの推進により、学びの意欲の向上を図る。加えて、池田町や町内小中学校との連携も行い、福祉・国際教育の実践に資する。

高等学校の教育の質の確保・向上や大学入試改革への対応ため、カリキュラムの研究をする。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月12日

【意見・要望・評価等】

- 学校全体として、習熟度に応じた分り易い授業や少人数授業など、力のつく授業に取り組んでいると感じます。また、補充授業など細かな個別指導は、とてもよいことであると考えます。加えて、学力だけでなく、健全な身体・豊かな心を含めた人間育成の指導に努めていただきたい。
- 新たな課題への取り組みは、大きく評価できると考えます。時代と地域の要請に応じた学校を作っていくことは高校の使命と感じます。
- 「読み・書き・そろばん」という言い方は古いかもしれませんが、まずどの学習にも、基礎・基本が大切であると感じます。さらに、時には、我慢を覚えさせる教育も必要であると感じます。